

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。

ルカによる福音書20：38

【説教要旨】

教会には、独特な暦、教会暦、暦に合わせた聖書日課、ペリコーペがあります。11月は、暦が閉じられる同時に、終わりについてのみ言葉が与えられていきます。

今日の聖書の日課は、私たちの復活信仰について考えさせられる復活のことの論争が記されている記事です。「さて、復活があることを否定するサドカイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに尋ねた。」とありますように、サドカイ派の人のような復活を信じきれないというよりも命を長らえさせ、自分と同じクローン人間を作れるまで、今、人間の命を遺伝操作で、どうにでも出来るまでの科学技術を手にいれています。復活に興味が薄れてきています。だからこそ、復活ということが肉体的復活でなく、信仰的にどう受け止めていくことが大切です。

「ところで、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎えましたが、子がないまま死にました。次男、三男と次々にこの女を妻にしましたが、七人とも同じように子供を残さないで死にました。最後にその女も死にました。すると復活の時、その女はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその女を妻にしたのです。」

これはユダヤ社会にある嫂婚（レビーラト婚）という制度を背景としての問いです。この世的といえはこの世的な問いです。イエスさまは答えられます。

この世の子らはめとったり嫁いだりするが、次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めと

ることも嫁ぐこともない。この人たちは、もはや死ぬことがない。天使に等しい者であり、復活にあずかる者として、神の子だからである。

ここで、この世の生と復活の生の断絶を宣言されます。そして、私たちの存在は「もはや死ぬことがない。」者であると言われるのです。神が測り知ることが出来ないお方のように神のなさることは私たちをはるかに超えられているのだといわれるのです。そして、イエスは、罪ある私さえ、神を信じ、信頼するものは、「神の子である」というのです。

養老孟司さんが、最後の審判のことをいっていました。「日々、変わり、動く私たちは、いつのとき、何歳の自分が審判に神の前にたつのでしょうか」と。私は4歳ぐらいまでならそんなに大それた罪を犯していないから、4歳のときと言われたことが印象に残っています。私もいつの時に神の前に立つのだろうかといつも素朴な疑問がありました。

これに対してイエスさまは次のように言われています。

「次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともない。」

復活は、この世の営みと非連続であるというのです。森一弘司教は、「イエスが伝える復活は、サドカイ派が思い描いている復活とは全く次元の異なるものだったのです」と言われ、「実に、それは十字架上の死と表裏一体の神秘でした。十字架の死の受容がなければイエスの復活はありえません。十字架の死と復活によって、罪の力が決定的に打ち砕かれ、死に覆われたやみの世界に永遠の命の輝きをもたされたのです。復活によって、もはや苦しみも悲しみも死もない永遠の命が私たちに与えられたのです。それは、わたしたちを愛し、私たちのためにご自分を渡されたイエスの愛がかちえた恵みです。

（「みことばの調べ 森一弘 サンパウロ」）

そこで、ルター教会の紋章を見てみましょう。

「これは私（ルター）の神学の目印ともいうべきもののなのです。第一は十字架です。それは、自然の色をした心臓の中に黒く描

かれています。

これによって私は自ら、十字架につけられた方を信じる信仰が私を救うことを思い起こしたのです。なぜなら、人が信じるならば、義とされるからです。これが黒い十字架であるというのは、死のしるしであって、痛みを与えるべきだからです。

しかし、心臓が自然の色をしているのは、本性がだめでないということです。十字架は殺すのではなく、生かすからです。 (「ルター」 徳善義和編 平凡社)



「十字架は殺すのではなく、生かすからです。」とは、復活の救いによって、罪赦され、主にある新しい生に生きる者とされているのです。「私たちは生きるにも死ぬにしても、私たちは主のものです」という聖書の言葉に立つのです。ここに立つとき、サドカイ派の問いは消えて行くのです。この世を私たちは生きつつも私たちは主の者とされてこの世の営みを超えて神の支配、神の国を生きる者とされています。

愛する人たち、わたしたちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語った言葉を思い出しなさい。彼らはあなたがたにこう言いました。「終わりの時には、あざける者どもが現れ、不信心な欲望のままにふるまう。」この者たちは、分裂を引き起こし、この世の命のままに生き、霊を持たない者です。しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。神の愛によって自分を守り、永遠の命へ導いてくださる、わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望みなさい。・・・あなたがたを罪に陥らないように守り、また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、栄光に輝く御前に立たせることができる方、わたしたちの救い主である唯一の神に、わたしたちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、永遠にいつまでもありますように。

アーメン

ユダの手紙1:17～25

牧師室の小窓からのぞいてみると



きっと、こんな無茶苦茶な世界は、いつかは終焉を迎えると思います。歴史はそのことを教えています。しかし、こんなあまりにも酷く、悪魔に満ちている世界を生きている私たちは、たまったもんじゃありません。忍耐は練達というように今は忍耐のときかもしれません。しかし、歴史はこのまま同じではないということです。動いているのです。

トランプ大統領にも、プーチン大統領にも、習近平主席にも寿命があります。同じではないのです。

だから、苦難をも誇りとします。・・・苦難は忍耐を、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すということです。これでは道徳、倫理です。行きつくところは、信仰です。きっと時代が変化するとき信仰が必要となります。

信仰は、希望は欺くことはない。わたしに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしに注がれているからですということです。きっと、ここに立つことが大切な時代です。

園長・瞑想？迷走記



木登りした園児の足が枝と幹の間にはさまり、大泣きをした園児がいた。出来るだけ園児らが自然にふれるように木を大切にし、木登りを許していた。自然と触れること、自然との距離を大切にしてきたが、こういうことがあると、「落ちて大怪我をしたらどうするんですか」と木登りの危険性が言われて木登りの制限がでてくる。

自然を通して、五感で危険性を感じられなくなる子どもたちは本当にこれから生きていけるのかと思う。

「そんな危ないことは」と自然から子どもたちを離し、考える力、生きる力を大人が安全対策指導ということにより奪っているのではないだろうかと思うことが多々あるが、園長は、つい安全性を優先していき、子どもの成長を止めている、中途半端な園長だといつも感じ、ため息をついている。まさに迷走中である。

日毎の糧

聖書：主よ、正しい訴えを聞き わたしの叫びに耳を傾け祈りに耳を向けてください。 詩編17：1



ルターの言葉から

愛する神のもとで支えられていることをわたしは確信している。（卓上語録より）

信仰に先立ち、いかなる神学思想をもこえる

月本照男氏は、詩篇17編の「思想と信仰」の中で、「本詩には『深み』のある宗教思想を汲み取ることが難しい。

だが、こうした単純な祈りが詩篇にはいくつも残されている。という事実は明記されてよい。『義』の神ヤハウエを奉じる古代イスラエル社会においてさえ、邪悪な者たちの横暴は絶えることがなく、横暴に曝され、ヤハウエの『義』を求めて神殿に逃れる他に術のなかった人々の願いは、なによりもまず、自らが救われることであり、横暴な敵が処罰されることであった。そして『義に飢え渴く』人々のこのような素朴な願いは、人類の文明の発達の中で、幾千年にもわたって発し続けられてきたのである。読者は、本詩を通して、あらためて、こうした祈りが日本で、世界で、今なお数多くの捧げられていることに思いあたるであろう。邪悪な横暴に打ちのめされている人々の単純な、それゆえ一層切実な願いは、あらゆる意味で信仰に先立ち、いかなる神学思想をもこえる。

（詩篇の思想と信仰 月本照男 新教出版）

今日もまさにこの祈りの世界がある。主よ、来てください。裁いて下さいと祈らざるを得ない。

そして、教会は邪悪な横暴に打ちのめされている人々の単純な、それゆえ一層切実な願いは、あらゆる意味で信仰に先立ち、いかなる神学思想をもこえるこの祈りを受け止めていくじことこそ世の光、地の塩として何かが出来るように聖霊の働きを強く祈ることではないだろうか。

祈り：主よ、不正に苦しむ民の祈りに耳を向けてください。

甘木通信

サムエル記から「主は心によって見る」

「星の王子さま」を読んでいると次のような一文に出会った。「王子さまはさらに言った。『だけど、目では何にも見えないよ。心で見ないとね』」

サムエル記上 16 : 7 を思い出した。「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」

同期で、編入学した者は、堀光男、合田俊二、田中博二、築達高雄、それに私の 5 名であった。その内で、合田牧師は釧路の地で 3 年の牧会のものち、胃がんのため天に召されました。「星の王子さま」の本を紹介してくれたのは、合田牧師でした。あの有名な帽子の絵を見せて、「何に見える」と聞き、私の答えに落胆したことを今でも思い出します。

「30 歳で病没するまで、教会の『週報』には、愛読するキェルケゴールに関する小文が連載されました。それも 105 回をもって中断します。早々に死が訪れました青年牧師の心をとらえた『キェルケゴール』とは、何であったのでしょうか。

〔日本人の心に刻まれたキェルケゴールの痕跡は、鮮烈で、すさまじく——それは、キェルケゴールを読み学ぶことが、知の遊びでなく、ただ一つのいのちを生きる実存のたたかい、であったことを物語っています。〕」と関西学院図書館報・「時計台」で、橋本淳先生が合田牧師の遺稿集、「北の単独者」を読み、書かれています。

「読み学ぶことが、知の遊びでなく、ただ一つのいのちを生きる実存のたたかい」とは、まさに「だけど、目では何にも見えないよ。心で見ないとね」ということではなかったのではないだろうか。生きて欲しかった。

(甘木日記)土) バザー準備の園庭の掃除、整備にいくが、疲れて寝込む。明日の「もし」を考えて代議員と相談。日) 朝は体調も良くなり甘木に向かう。共に礼拝。月) 教会のバザーだが、風邪症状が夫婦に起きて行けず、幼稚園から出品している保護者と教会員の方にケーキ、チョコを届けていただく。火) インフルエンザとなり、金曜日まで自宅療養。水) 病状も消えていたが、一日、寝ている。木) 布団をしまふ。しかし、松崎保育園には行けず。金) 親しくされていた大森教会の信徒さんの帰天を聞く。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
ぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）月曜日の久留米教会がバザーで人を迎えるに出来るだけ綺麗な園で
過ごしていただきたくて園庭の花壇の手入れ、外に置いていた鉢を片付
けたが、風邪のせいだろうか体がきつく、一日、寝る。明日の礼拝が
出来ないときの打ち合わせを代議員と打ち合わせ。日）朝は快調になり、
全聖徒の日の礼拝をするために、電車で甘木教会に行く。無事に礼拝も
出来、庭の掃除をした後に信徒さんに送られて帰宅して、夕刻、家内の
咳が止まらず、どうも熱はないがコロナか、インフルエンザと疑いたく
なる。病院は今日、明日と休診。二人で火曜日に病院で検査をしよう。
月）今日は久留米教会のバザーであるが咳、鼻水、微熱と続くので失礼す
る。幼稚園の保護者がコーヒーの出店、水引を出品されたので、教会員
の方にケーキ、チョコを届けていただく。職員も元



職員も保母も手伝ってくださったと嬉しい連絡を
いただく。久留米市北野天満宮の参道に「さいわ
い屋」という伝統的に水引細工の店があると聞く。
保護者の水引細工がどんなだったか見たかった。火）起きた時、家内は立
てずにいたが、どうにか近くの夫婦で病院に行く。気を付けていたのにも
関わらず、インフルエンザ。自宅療養。幼稚園に金曜日までいけない。
スケジュール変更を打ち合わせ。次に木曜日に行く保育園にも連絡する。
明日の大学病院の診断も変更していただく。幼稚園の終礼の報告がメール
であり、これに返答し、対処する。水）薬も効き始めて症状が取れて、
熱も下がったが、一日中、寝ていると腰が痛くなる。終礼報告があり、
課題について主任と話す。夜、寝ようとするとき心と身体が分離したよ
うななんといわれたい体験する。木）布団をしまうが、学校や幼稚園・
保育園では「発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過する
まで」の間は出席停止となるので、自宅で静養。終礼報告があり、一
日の園の動きが映る。「物語がえがけるような今日は一日でしたね。誠に
ご苦労様でした。ありがとうございます。」と責任を担ってくださっ
ている先生にメールを返信。その間に羽村幼稚園の責任者会議に
zoom で参加。2026 年度に向けて「教育・保育方針」を作っていてく
ださる園長、副園長、園長補佐の努力に感謝。松崎保育園での子ども
らと礼拝が出来なかったのが残念だ。金）出席停止
は今日まで。「風のように」を読まれていた前教会の
信徒さんが帰天された連絡を受ける。すべてに時が
あるを実感。明日のキリスト教講座は延期する。

